

地域の皆様と川島ロイヤル・ワム・タウンを結ぶ広報誌

ふれ愛

NO.
108
2021.10月号

<https://www.loyal-wam-town.jp/>

Contents

「学習による脳の活性化を目指して」

—認知症予防の取り組み—

介護老人保健施設・平成の森

「人を育てること、教えることは」

～教育的なかかわりの本質を考える～

埼玉県看護協会、研修に参加してきました

平成の森・川島病院

夏祭り2021

平成の森・川島病院

花火大会を開催いたしました

介護老人保健施設・平成の森

新しい医師のご紹介

平成の森・川島病院

屋上看板用の照明設備を修理しました

平成の森・川島病院

令和3年8月に平成の森・川島病院に着任いたしました増本愛と申します。

平成20年に埼玉医科大学医学部を卒業、初期研修医2年修了後、埼玉医科大学病院 呼吸器内科に入局し、呼吸器専門医・アレルギー専門医として、気管支喘息やアレルギー性鼻炎などのアレルギー疾患や慢性閉塞性肺疾患（COPD、肺気腫）、細菌性肺炎の診療や禁煙外来、睡眠時無呼吸症候群の外来などにあたってまいりました。

また、埼玉医科大学国際医療センターでは、抗がん剤を中心とした肺癌の積極的治療を行い、その後は、がん終末期の患者様の緩和医療に携わってまいりました。

私生活では、小さい子どもが2人おり、子育て中のママでもあります。

今回、ご縁があって、当院に入局させていただきこととなり、現在コロナ禍で、閉塞感のある世の中ですが、患者様やご家族に寄り添い、安心できる医療を提供するべく、スタッフの方々との連携を深め、地域医療に少しでも貢献できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



医師 増本 愛

「人を育てること、教えることは」～教育的なかかわりの本質を考える～ 埼玉県看護協会、研修に参加してきました

先日、埼玉県看護協会の研修に参加し、主に次のような内容の話を聞くことができました。

- 「教える・育てるとは・・・」
 - ◆ 上から目線の関わりが相手にもたらすもの
 - ◆ 「育つ」のは誰なのか？ 「学ぶ」のは誰か？
- 一人の人間として対等な関係が大切!
- 「人を育てる」とは新人・学生・スタッフに対する指導場面はすべて「授業」であり「教育的な関わり」の場である。
- 自分と相手が向き合い、互いの「方向」がぶつかり合い交わることで「教える・学ぶ」の関係が生まれる。
- 教えるということは、相手を自分の思い通りに変えることではない。経験の変容・成熟・発展の過程に具体的に関わることである。
- 一人の患者に「個別性」があるように、新人・学生にもそれぞれ「個別性」がある。
「新人は・・・、学生は・・・」など先入観・偏見を持って対象を見ない。
- 新人・指導者は上下関係ではなく、互いに育っていく関係である。その人も良さが十分発揮され、指導者も共に育つ。

「研修資料より抜粋」

今回の研修に参加して、初心を忘れずに行動していくことの大切さを改めて学びました。また、新人教育は新人の成長に左右されるため難しい部分もありますが、仕事を教えていく上で新人と共に成長していけることを学びました。さらに、一番近い存在の指導者が積極的にコミュニケーションを図っていくことが重要であることに気がきました。

今回の研修は、自己を振り返るきっかけともなった為、学びを忘れず、日々の業務の中でも活かしていきたいと思えます。



平成の森 通所リハビリテーションでは、認知症予防の取り組みの1つとして計算問題を実施して頂いています。数唱や桁数の少ない簡単な計算問題は、脳の中で記憶を司ると言われる側頭葉や頭頂葉だけでなく、コミュニケーションや意欲などを司る前頭前野を活性化させ、継続的に行うことで記憶機能の向上やコミュニケーション能力を改善させる効果が期待されています。

計算問題を実施して頂く上で大切な事は、1人1人のレベルにあった問題を用意することです。あまりに



簡単すぎる課題は達成感を得られませんか、難しく過ぎる課題は意欲を減退させるだけでなく前頭前野の活性化に繋がらない為です。私たちは、多くの方に適切な課題を提供できるよう問題用紙を難易度毎に分類すると共に、やりがいや達成感を感じて頂けるよう全ての解答用紙を採点し、必要に応じて解説などのコメントを添えてお返ししています。これからも、楽しみをもって学習を継続して頂き、皆様の認知症予防に繋がって頂けるよう精一杯取り組んでいきたいと思えます。

リハビリテーション室 金子 政光

花火大会を開催いたしました



今年も夏の締めくくりとして8月28日(土)に花火大会を開催いたしました。未だコロナウイルスの感染拡大が収まらず、緊急事態宣言が継続されており、以前行われていた春祭りやバスツアーのような大きなイベント開催が見合されており、そのような状況の中、利用者

様と少しでも季節を感じ、日々の生活に楽しみを持っていただきたい思いで準備を行って来ました。当日は、日中35度という猛暑日でしたが、日が暮れるころには秋風が吹き、比較的過ごしやすい夜でした。感染対策としてマスクの着用、手指消毒の徹底、ソーシャルディスタンスの配慮と万全を尽くし花火大会に臨みましたが、しかしざら始めてみると風が原因で火がなかなか着火しないというハプニングに見舞われました。利用者様をお待たせしてしまう状況になってしまいましたが、それでも花火があがると皆様見入っておられたように思います。準備した約150本分の花火はあっという間に利用者様の感嘆の声とともに夜の空へと消え、楽しい時間は終了しました。利用者様にお話を伺ってみると「きれいだった」「夏は花火だね」といったお声を頂く事ができました。夏という季節を感じ楽しんで頂けたかと思えます。今後も日々の生活を彩るようなレクリエーションを行って頂けるよう邁進してまいります。

あじさい通り 細谷 剛

今年もリハビリテーション部では8月10日～8月17日にリハビリ室の和室にて夏祭りを行いました。毎年患者様に「夏」を感じていただけるように行っています。

“お祭り感”を感じていただけるようにスイカ割りやのびのびくじ引きや魚釣りを行いました。くじ引きでは当たりが出ると手作りのかごを、参加賞として手作りの金魚を景品とし

て用意しました。景品はどれも非常に好評で笑顔も多くみられ、スタッフと夏の話をして盛り上がるなど大盛況でした。

今年も新型コロナウイルスの感染対策のため規模を縮小して実施しましたが、このような時だからこそ、季節感を感じていただけるイベントを考えていきたいと思っております。

リハビリテーション部 作業療法士 穴水 崇行



屋上看板用の照明設備を修理しました



照明設備の不具合により長らく明かりがつかなくなった屋上看板ですが、無事に修理が完了し明かりが灯りました。

周辺環境の影響もあり、夜間は何の建物か分かりにくい状況でしたが、今回の修理により看板の視認性が格段に向上され、圏央道近くからでも見えるようになりました。

暗くなってから出退勤される方は少ないかもしれませんが、夕方～夜22:00まで点灯していますので、機会ありましたら少しだけ屋上を見上げてみてください。

総務課 松尾 篤

編集後記 秋の気配を感じます

この毬栗(いがぐり)の写真は8月の終わりに撮ったものです。散歩の途中にふと目をやると、真ん丸とした緑色や薄茶色の毬栗がなっていました。少し調べてみると、この栗の毬(いが)は『苞葉(ほうよう)』という葉が変形して出来たものだそうです。葉が毬に変わるなんて不思議ですね。まだ暑い日があつたりしますが、少しずつ秋の気配を感じるこの頃です。

平成の森・川島病院 3階病棟クラーク 神庭 亮子



川島ロイヤル・ワム・タウン



平成の森・川島病院	電話 049 (297) 2811
ロイヤルケアホーム川島(サービス付き高齢者向け住宅)	電話 049 (299) 0880
訪問看護ステーション 平成の森	電話 049 (297) 8331
介護老人保健施設 平成の森	電話 049 (297) 8808
居宅介護支援事業所 きすな	電話 049 (297) 8797
川島クリニック	電話 049 (297) 8783